第 32 回馬の絵作品展審査講評

審査委員長　　森戸　春樹

第 32 回馬の絵作品展に全国から多数の応募がありました。小学校低学年は画面からはみ出るような大きな顔や体の馬がたくさんいて頬が緩みました。中学年は馬の特徴を強調した個性的な絵に感心しました。高学年は馬のしぐさや周囲背景にも注意して描かれ、彩色も豊かになりました。中学生は表現がより精密になり、たてがみ一本、筋肉の動き等丁寧に描いていました。さらに母子馬の愛情、馬と人のふれあい等の表現の深化が進んでいました。本年度の文部科学大臣賞作品は、柵から首を出した馬を確かなデッサンと構図で描かれていました。静かで落ち着いた雰囲気が色調からも感じられ、馬の視線の先には信頼する人物の存在を思わせる作品です。

かつては日常生活で当たり前に目にした馬ですが、「馬の絵作品展」に応募して馬の力強さ、優しさを感じてほしいです。次年度もみなさんの作品を待っています。